

【登壇者紹介】

菊地 唯夫 (ロイヤルホールディングス株式会社 取締役会長/料飲稲門会 会長)



1965年神奈川県生まれ。1988年早稲田大学政治経済学部卒、日本債券信用銀行（現 あおぞら銀行）入行。1993年フランス ESSEC 経済商科大学院大学（ビジネススクール）卒業、1997年同行秘書室秘書役（頭取担当）。2000年ドイツ証券入社、投資銀行本部ディレクター担当。2004年執行役員総合企画部長兼法務室長としてロイヤル（現 ロイヤルホールディングス）入社。2010年代表取締役長、2016年代表取締役会長兼 CEO、2019年代表取締役会長、2026年より現職。2020年より京都大学経営管理大学院で教壇に立つ。2022年よりサービス産業生産性協議会副代表幹事、2024年より経済同友会副代表幹事をつとめる。

前田 裕二 (NTT株式会社 宇宙環境エネルギー研究所 所長)



博士（システム情報科学）

1991年4月 NTT通信網総合研究所入社 通信EMC技術の研究に従事

2004年4月 日本電信電話株式会社 第三部門 主幹研究員 環境・エネルギー・防災プロジェクトに従事

2007年7月 NTT環境エネルギー研究所 主幹研究員、グループリーダ 防災、ヘルスケア関連の研究開発に従事

2014年10月 NTTセキュアプラットフォーム研究所 理事・主席研究員、企画部長、PM 兼務 NTT-CERT（サイバーセキュリティ）、危機管理の研究開発に従事

2018年7月 日本電信電話株式会社 研究企画部門 R&Dビジョン担当 統括部長

2020年7月 NTT株式会社 宇宙環境エネルギー研究所 所長

竹山 春子 (早稲田大学 理工学術院先進理工学部 教授/カーボンニュートラル社会研究教育センター副所長)



1986年に東京農工大学農学研究科にて修士号（農学）を、1992年に同大学工学研究科にて博士号（工学）を取得。米国マイアミ大学海洋研究所で研究員としてキャリアを積んだ後、1994年から東京農工大学で助手、助教授、教授を歴任、2007年に早稲田大学に着任。2009年にはナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所の所長に就任し、2016年からは産業技術総合研究所・早稲田大学生体システムビッグデータ解析オープンイノベーションラボラトリーのラボ長も兼任。2019年から2022年まで日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員を務め、2020年には内閣府ムーンショット目標5のプロジェクトマネージャーに選出、環境

負荷の少ない循環型農業の実現を目指して土壌微生物研究に着手。2023年からはJST 先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）バイオ分野のプログラムオフィサーとして、国際共同研究の推進や若手研究者の育成に尽力。同年、日本学術会議会員に選出され、2024年からは早稲田大学内のカーボンニュートラル社会研究教育センター副所長を務める。

穴井 豊昭 (九州大学 農学研究院 教授)



1994年-1997年 筑波大学 応用生物化学系 助手

1997年-2007年 佐賀大学 農学部 助教授

2007年-2013年 佐賀大学 農学部 准教授

2013年-2021年 佐賀大学 農学部 教授

(兼務) 鹿児島大学大学院連合農学研究科 教授

2021年-現在 九州大学 大学院農学研究院 教授

西田 亮也（株式会社 TOWING 取締役 CTO）



1995 年生まれ。名古屋大学大学院工学研究科修了。2020 年に兄の西田宏平と共に、TOWING を共同創業、取締役 CTO に就任。材料工学と土壌学をバックグラウンドに持ち、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発した技術に、バイオ炭製造評価、微生物培養などに関する独自の技術を融合させ、社会実装化した。現在は、微生物とバイオ炭を組み合わせた高機能バイオ炭を活用した、環境保全型・再生型農業を推進するための研究開発に従事。

主な受賞歴として、MIT テクノロジーレビュー主催「Innovators Under 35 Japan 2022」未来を創る 35 歳未満のイノベーター、Forbes 主催「Forbes 30 Under 30 Asia 2024」世界を変える 30 歳未満等に出選されている。

田中 康輔（株式会社パソナ農援隊 代表取締役）



1999 年株式会社パソナ入社。

阪神淡路大震災の復興支援事業、地方創生に向けた新規事業開発等に携わり、2011 年、農業分野の振興と地方の活性化に取り組む「株式会社パソナ農援隊」代表取締役に就任。農業分野の人材の募集・育成を通じた雇用創出、販売支援、フランス・パリ支店の立上げやブランディング支援を展開。2021 年には Awaji Nature Lab & Resort を兵庫県・淡路島に設立。

農業を通じ、「自然環境の保全」「人々の健康増進」「地方の観光振興」に寄与し、人々の豊かなライフスタイルの実現と農業の関係人口増加の取り組みに力を入れている。

大村 智則（株式会社コラゾン 代表取締役）



大手電機メーカーや消費財メーカーでの国内、海外のマーケティング経験を経て、2001 年に株式会社コラゾンを設立。

スペイン語で『心』を意味する社名には、『日本の伝統技術を現代のライフスタイルに再定義し、現代社会のウェルビーイングに貢献したい』という想いを込めている。

現在は、日本の伝統的発酵の核である『麹 (KOJI)』が持つ健康・美食価値や、伝統食材に着目し、内閣府の『BRIDGE』プログラムへの参画や大学との共同研究を推進。科学的エビデンスに基づいた発酵食品の社会実装と、そのグローバルブランド化に尽力。麹の持つ可能性を最大限に引き出す取組みとしてオリンピック選手、トップアスリートとのコラボレーション、早稲田大学競走部長距離ブロックのスポンサーシップ契約を結び、伝統産地プロデューサー、静岡市のマーケティング政策アドバイザーとしても活動中。

下川 哲（早稲田大学 政治経済学術院 教授／カーボンニュートラル社会研究教育センター 副所長）



2000 年、北海道大学農学部農業経済学科卒業。2007 年、米コーネル大学で応用経済学の博士号 (Ph.D.) を取得。香港科技大学社会科学部助教授、アジア経済研究所研究員、早稲田大学政治経済学術院准教授を経て、2025 年 4 月から現職。これまで、国際学術誌の「Food Policy」や「Journal of the Agricultural and Applied Economics Association」、国内学術誌の「農業経済研究」や「The Japanese Journal of Agricultural Economics」などの編集委員も務める。専門は農業経済学、開発経済学、食料政策。

HAL YAMASHITA (HAL YAMASHITA 東京 エグゼクティブシェフ 一般社団法人日本飲食団体連合会 副代表理事)



2007年、東京ミッドタウンに「HAL YAMASHITA 東京」をオープン。2010年・2012年の「ワールドグルメサミット」において2度の世界チャンピオンに輝き、日本を代表するシェフとして国際的にその名を確立する。その後もシン

ガポール、米国カリフォルニア・ナパバレー、英国ロンドン、へと活躍の場を広げ、「新和食」を軸に日本の食文化をグローバルに発信し続けている。

「新和食」とは、世界各国での修業を通じて培った技術と感性をもとに、伝統的な和食を現代的にアレンジしながら素材の持ち味を最大限に引き出す独自の料理哲学。ベジタリアン・ビーガン・ハラール・グルテンフリーにも対応した包括的なスタイルで、多様な文化・価値観を持つ世界の食卓と日本の食の本質をつなぐ架け橋となっている。

国連 WFP 世界食糧計画顧問や慶應義塾大学大学院 特任教授を務めるほか、日本飲食団体連合会 副代表理事としても精力的に活動。料理人の枠を大きく超え、地球規模の食糧問題への取り組みから次世代の食育・研究、日本の食文化の継承と国際的な発信まで、「食の未来」を見据えた多方面な活動を力強く推進している。

早川 禎宏 (株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE 副センター長)



1987年3月に大阪大学 理学部化学科を卒業し、株式会社島津製作所 分析計測事業部にて、高速液体クロマトグラフィーに関連する分析方法や装置の開発を行いつつ、お客様のサポート等にも取り組んできた。

現在、Solutions COE 副センター長として、医薬、食品、臨床などヘルスケア分野を中心に高速液体クロマトグラフ以外に質量分析計など島津製作所の提供する分析機器を活用した共同研究の企画・推進を主な業務として活動している。

上原 万里子 (東京農業大学副学長/応用生物科学部教授 日本農芸化学会 会長)



1988年 東京農業大学大学院 農学研究科 博士後期課程 修了(農学)

1997年 同大学 農学部 栄養学科助手・1998年 同助教授

1998年9月～1999年3月 ヘルシンキ大学医学部 博士研究員

2007年 東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 准教授

2008年 同教授

2014年 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 教授

2021年 東京農業大学 副学長

2025年 公益社団法人 日本農芸化学会 第65代会長

朝日 透 (早稲田大学 先進理工学部長・研究科長/早稲田大学 理工学術院 教授)



都立白鷗高校卒業、1986年早稲田大学理工学部応用物理学科卒業、1988年早稲田大学大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻修士課程修了、1990年早稲田大学理工学部助手、

1991年早稲田大学大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻博士後期課程満期退学、

1992年博士(理学)取得。2007年早稲田大学ビジネススクールにて経営学修士を取得。現在、早稲田大学グローバル科学知融合研究所所長、ナノ・ライフ創新研究機構副機構長。

学際的研究を推進し、イノベーション人材の育成に取り組む。専門は、キラル科学、生物

物性科学、結晶光学、機能性薄膜、対称性の破れ、循環型食料生産システムの研究。2024年9月より、早稲田大学先進理工学部長・研究科長。